

## プランA 学校に直接働きかける

7月26日(月) 区・理科研修会 学力調査の結果で危機感を

9月 校長連絡会で説明  
9月中旬から 学校訪問開始  
主に中学校を訪問  
希望校は先にやる

### 【授業参観】

その後の協議会及び理科室の点検  
学力向上の取り組みについて話を伺う  
自作問題の定期テストを実施している学校では、活用問題の割合を増やすようにすすめる  
→ その問題が解けるような力身につく授業の実施を促す

10月 主に義務教育学校を訪問

11・12月 主に小学校を訪問

3学期 再訪問

指導案はポイントのみを明示した略案でよい。

## プランB 活用する力を身に付けさせる

8月 委員の人選  
9月 任用

### 【学力向上プランの検討する委員会】

- ・ 指導と評価それぞれの側面から学力向上の推進を図る（指導と評価の一体化）。
- ・ 推進委員自身の資質の向上を図る。

#### 【指導】授業研究の推進

- ・ 活用する力を身に付けさせる場面の動画を作成する。
- ・ 動画の視聴には、教育会理科部との連携を図る。

よい授業を動画にして、公開。視聴。  
・ 指導案の作成、  
・ 動画の撮影、編集、公開。

#### 【評価】6・9年用の評価問題の作成

- ・ 活用力を見取る問題作成をする。
- ・ 問題の実施には、教育会理科部との連携を図る。

活用に関する問題作成（思考・判断・表現）。  
委員一人につき、数問程度。  
word形式で作成する。著作権に注意が必要。

10月下旬 第1回 推進委員会  
(趣旨の説明)

推進委員の負担が過超にならないよう、支援が必要。

11月中旬 第2回委員会  
11月下旬 第3回委員会  
12月上旬 第4回委員会  
12月中旬 第5回委員会

第2-6回は小・中別に開催。  
Zoom。委員からすると、自分の問題をもって1回は検討委員会に参加すればOK。

1月中旬 第6回 評価のための委員会  
(問題の確認)

1月 学校長会役員会  
1月 及び学校長会で説明  
1月下旬以降 各学校で評価問題の実施

教育会理科部との連携が不可欠

授業で行う前提。定期テストや評定に組み込むことも可。

## プランC 基礎基本を徹底させる

9月 教育会理科部で方法の募集  
(eライブラリの活用がキーか?)  
10月 教育会理科部  
eライブラリの活用方法を情報共有

eライブラリは基礎基本には向いている。指導者側の負担は少ない。ただし択一問題ばかりで、数値や記述で答える問題はドリルではない。

文字ベースなら、部分的に修正すれば、コピーは可能である。ただし、教科書やFAX問題集でも、無許可でコピーはできない。都立高や都立中などの入試問題のコピー可。

eライブラリはマイクロソフトアカウントで紐づいており、ログインは簡単である。指導課としては、以前からマニュアルを作り、eライブラリを使うようお願いしている。使っていない先生に使うようにするには、「具体的に教えてくれる身近な人」=同僚かICT支援員が必要。

### 令和4年度以降の見通し

- ・ 場面動画の撮影での教育会理科部との連携を図る。
- ・ 5・8年以外の4・7年の評価問題を作成する（ストックを増やす）。

参加者：A校長、B副校長、○C主幹教諭、○D教諭、○E教諭

#### 授業：

7年。ワインの蒸留。D教諭。理科室でのグループ実験。

D教諭は、授業準備をていねいにしている。真面目さが窺える。3年次研の授業としてはすばらしい。実験器具の準備の過程を1枚ずつ写真に撮り、それをロイロノートに貼って手元の端末で見えるようにしている。←写真の枚数が多いと一覧性がなくなる。1枚の資料で全部説明できている方がよいかもしれない、とアドバイスした。実際、生徒は写真を見て確かめるというより、ぶっつけ本番で実験を開始していた。

ワークシートもロイロノートで準備している。←生徒の記入とその提出を求めたが、生徒はiPadの操作には手慣れていたが、実験の時間が足りなくなって提出できていないグループが半分ほど出てしまった。←マッチをガスマッチに、ガスバーナーをガスコンロに置き換えたりすると時短になる。ガスバーナーの操作が習熟できていないという感じはしなかった。

授業のねらいがはっきりしていない。←校内研の課題である「ICTの活用」には沿っているが、生徒からは「教科書の指示通りに実験をして、その結果をロイロノートで提出する」というように見えてしまっている。実験で明らかにしたいことは何か、そこを共有させて実験を始めて欲しい。

8年。呼吸器官のしくみ。E教諭。教室での座学。

生徒は概ねやる気がある。E教諭も授業準備をきちんとしている。生徒一人一人個別に1分間の呼吸数を量らせたり、NHK for Schoolの動画を見せたり、小ネタも豊富に用意してある。←知識・理解の伝達が中心の授業に陥っている。生徒の活動は黒板を写すことと、先生との掛け合いが中心で、生徒に考えさせる場面が少ないとアドバイスした。

9年。メンデルの遺伝の法則。C主幹教諭。教室での座学。

二人1組でくじを引いて、メンデルの法則を確立で示すモデル実験を行った。授業のねらいがはっきりしていない。←生徒にとっては「先生の指示通りに実験をして、その結果をワークシートで提出する」というように見えてしまっている。実験で明らかにしたいことは何か、そこを共有させて実験を始めて欲しいし、少なくとも実験後のデータを用いて振り返りをしてほしい、とアドバイスをした。

#### 協議会：

理科の教員が3人いて、互いに授業の感想を述べ合った。ベテラン2人と若手1人。ちゃんと話し合えるが、褒め合うばかりになっている。E教諭が自分の授業を「昭和のスタイル…」と言ったり、C主幹教諭が自分の授業を「準備の時間がなくて…」と言いついたのが気になった。

7-9年のどの授業はいずれも生徒の学ぶ雰囲気があり、よい状況。ただ、知識・理解の伝達型の授業になっていないか。→意図的に考えさせる場面を増やしていくようにアドバイスをした。

#### 学力調査：

生徒の偏差値は平均以上。授業中、投げやりになっている生徒は見あたらない。しかし、どの学年も、他の4教科より劣る結果になっている。しかも、7年→8年と学力が下がる。ただ、7年の知識・技能だけは、区の平均より劣る。折りをみてeライブラリアドバンスをやるように指導しているが、数回程度。←富士見台中や八潮学園の実践を紹介し、もっと使って見ることを進め、個別に指導していくと効果が出るとアドバイスをした。

#### 定期考査：

3人とも、知識・理解で解ける問題が明らかに多い。長文を読み解く問題は、皆無。←3年前の文科省の過去問題を示し「場面を設定して、その中で思考を問う問題がほしい」とアドバイスをした。